

ちっちゃいものくらぶ

ねこ(さん)

今回はあまりに身近なくらぶの会員のため、その生態は皆さんよ〜く御存知だと思うので、ねこさんが登場する本をご紹介しますと思います。一冊でもお気に入り如果能したら、本好きの私としてはとても嬉しいです。



「あずかりやさん」大山淳子

〜一日百円で、なんでもおあずかりします〜
明日町こんべいとう商店街の西のはじでひっそりと営業する「あずかりやさん」店を訪れる客たちは様々な事情をかかえて「あるもの」を預けようとするのだが…。心優しい店主が営むあずかりやを舞台に描かれる人々の様々な思い。
その他の著作「**猫弁 死体の身代金**」「**猫弁と少女探偵**」「**雪猫**」

「モ/レールねこ」加納朋子

小学生の僕は、ねこの首輪に挟んだ手紙で「タカキ」と文通をする。ある日、ねこが車に轢かれて死に、タカキとの交流は途絶えたが…。
表題作以外にザリガニの俺が、家族を見守る「**バルタン最期の日**」など、夫婦、親子、職場の同僚など、日常にさりげなく現れる、大切な人との絆を描いた8編。

「**しづく**」西加奈子 恋人同士と一緒に暮らしたことから出会った二匹の雌猫。彼女たちの喧嘩だらけの日々、そして別れを綴る表題作。他、「あなたがいてよかった」日だまりのように温かい「女ふたり」の六つの物語。

「**しっぽちゃん**」群ようこ 毛をかきわけ鼻を押し付け、もしもしよつとした感じ…。を味わう幸せ。生き物のいる日常とくしっぽへの愛に溢れた短編集。ネコのトラタロウくん、セキセイインコのぴーちゃん、雑種犬のちゃーちゃん、ハムスターのハーちゃん、ムーちゃん、ネコのしらたまちゃん、ヤモリのヤモリさん、リクガメのはるみちゃんたちが登場！

高橋由木「**猫は心配性**」時は幕末、江戸の町にニセ金が蔓延り、悪党たちは横行。為す術のないゆるゆる町奉行所に、有能すぎる与力がやってきた。人呼んで「鬼テツ」の豪腕に、おネ工同心・中村様は真っ青。闇では新仕事人も暗躍、元仕事人の化け猫まるは、おちおち惰眠も貪れない。

「**猫は仕事人**」春らんまん。江戸は本所深川で、三味線の音を聞きつつ駄猫ライフ満喫中の化け猫まるに、町娘姉妹の悲話が降りかかってきた。悪い奴らに騙されて、骨までしゃぶられる人間たちを見て、「ゆるせない！」と仲間だった化け猫たちも立ち上がる。まるはもう裏の仕事人稼業はやめたはずだったけれど。その恨み晴らします！うちの猫が。 その他同著者作品「**猫は大泥棒**」

「深川にゃんにゃん横丁」宇江佐真理

お江戸深川にゃんにゃん横丁。長屋が並ぶこの場所はその名の通り、近所の猫の通り道。白に黒いの、よもぎにまだら。愛らしい猫たちがあくびをしているその横で、雇われ大家の徳兵衛は、今日もかわらず大忙し。悲しい別れや戸惑いの出会い。報われない想いや子を見守る親の眼差し。どんなことが起ころうと、猫がニャンと鳴けば大丈夫。下町長屋の人情溢れる連作時代小説集。

「猫怪々」加門七海

雨あがりに拾った、死にかけた仔猫。…のおかげで、摩訶不思議なモノたちまで、わが家にやって来た！猫に優しい町を選び、マンションを購入した著者。ある雨あがりの日、路地裏で一匹の仔猫と出会う。掌に乗るほど小さく、ぐったりとしていた仔猫を見捨てられずに飼うことを決意するが、いくつも病気を抱えていたうえに、なんと怪奇現象までついてきて…。病院通いに、気功にお経。猫に振り回されながらも、しみじみ愛おしさが湧いてくる。

猫好き怪談作家の、あやしくも愛しい体当たり「育猫日記」

香箱をつくってるネコさん



「ふめけうようよ〜猫手長屋事件簿」

仲野ワタリ 代三郎は「猫手長屋」のぐうたら大家。仕事もせず、三味線を鳴らすばかりで、店子からも頼りにされていない。しかし、彼には故郷の氏神・大猫様から授かりし使命があった。それは江戸の町に跋扈する魔物を退治すること。今日も飼い猫の栗坊と、三味線片手に不穏な空気漂う屋敷へ向かうのだった。

「**猫侍 玉之丞、争奪戦**」新井淳平 凄腕の侍・久太郎。愛猫玉之丞との長屋暮らしはなにかと窮地に見舞われる。見かねた妻の母から突きつけられたのは「猫を捨てて働きに出ないと離縁させる。猫と家族とどっちが大事か」という究極の選択。猫も家族なのにしつしつと働きに出る久太郎だが、留守の間に玉之丞がさらわれてしまう。いったい誰がなんのために？久太郎と玉之丞は家族として平穏に暮らせない運命なのか？「動物癒し時代劇」ここに見参。